

かわかんネット

発行：一般社団法人 東北河川管理技術研究会事務局

〒980-0802 仙台市青葉区二日町 18-25 シャルム二日町3F

E-mail: triver@ae.auone-net.jp Tel: 022-398-8831 Fax: 022-398-8832

年頭にあたって

東北河川管理技術研究会会長 宮内 利夫

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

平成27年の干支は、未（ひつじ）年。「未」は、象形文字のまだ枝が伸びきっていない様をあらわす字と云われており、ひつじは家族の安泰や平和の象徴に例えられています。

昨年の嬉しい代表的な話題では、青色LEDでノーベル物理学賞を3氏が受賞し、スポーツでは、羽生結弦・内村航平の金メダル・錦織圭や葛西紀明の活躍があります。

平成26年東北の自然災害出水等は、2月の低気圧による暴風雪と大雪による国道の通行止め、7月には梅雨前線大雨により、最上川及び赤川等の洪水があり、直轄6ダムによる洪水調節が行われて流水による直轄区間での一般被災が防がれています。

10月には台風18号・19号が接近しましたが甚大な被災もなく通過しています。

全国の自然災害としては、前線性大雨で命名された「平成26年8月豪雨」では、広島市の土砂災害により74名の人的被害や京都府・兵庫県などの住宅被災が発生しており、9月には御嶽山の水蒸気爆発があり、登山者の60数名が犠牲となっています。

気象庁の発表では、昨年世界の平均気温（1月~11月）は、平年を0.27度上回り1889年の統計開始以来最高となる見通しとなる速報値を公表しており、「二酸化炭素などの温室効果ガス増加に伴う地球温暖化の影響が考えられる」とされています。

世界的な温暖化は、海水温の上昇により水蒸気の増大をもたらし、積乱雲の発達を助長し、局地的なゲリラ豪雨を頻発させる要因との報道もあります。

東日本大震災から3年が過ぎ、被災地の復興は確実に進展していますが、蔵王連峰・吾妻山などの火山活動が活発化しており、これらは海洋プレートの動きに関わっているとされ、東北には常時観測を行っている火山が10箇所ありますが、これに八甲田山・十和田を加えた12火山について、今回招集の通常国会に「火山防災協議会」の設置を義務化とする改正法案の提出を明らかにしています。

一方、国土交通省では「社会資本メンテナンス元年」として、「公共工事の品質確保の促進に関する法律」の第三条第11項に「公共工事に関する調査及び設計の品質」が盛り込まれ、資格等により品質を確保することが規定され、平成26年6月に公布・施行されています。

本年も、会員皆様の経験・知識そして技術力を生かし、研究会の活動と着実な進展のため、「和」と「未来志向」で皆様のご支援とご協力をお願いします。

新年にあたり、会員皆様の、ご健康とご多幸をご祈念申し上げます。

I. 堤防分科会

1. 開催日・場所 : 平成26年7月23日(水) 東急ビル2階
2. 出席者 : 東北地方整備局 8名 研究会会員 8名
3. 討議内容

堤防の巡視と維持管理、築堤時の施工方法の3視点で課題を整理

- 1) 現場レベルにおいて、明確な判断基準のないものが多い。例えば、補修のタイミングなどが、分からない。それらの規定・基準をもう少し明確にすべきである。
- 2) 築堤の施工についても、築堤材料は、購入土となっているが、土場ごと、地域ごとに材料は異なる。材料選定時の材質選定や改良コスト等について、明確な基準が無い。
- 3) 近年多発する竣工直後の堤防法崩れについて、マニュアルは、一般的過ぎて、現場レベルに合致していない可能性(何故、施工時に現場に合った築堤材料仕様にしなかったか、出来なかったか。発注どおりに施工した理由など説明すべき)。
- 4) 堤防分科会の今後について

研究会会員と現役職員が、施工中の現場を見ながら、マニュアルに書かれていない様々な技術を現役職員に伝える(堤防分科会にとどまらず、全分科会=研究会全体で実施することが望ましい)。各マニュアルの勘所などを整理し、現役職員に伝える仕組みづくりを考える。

例えば、河川管理上、注視する必要のある事象=堤防の縦のクラック、堤防法面の含水比の高い箇所、樋門樋管の函体の重要箇所、位置のクラック、低水路と堤防の接近箇所など、特に豪雨、地震などの外力が加わった後に注視すべき箇所の抽出、選定(河川管理版河川カルテの作成など)、後輩に情報を繋いでいく仕組みづくりを考え、実践していくことが重要である。

II. 樋門樋管分科会

1. 開催日・場所 : 平成26年7月25日(金) 東急ビル4階
2. 出席者 : 東北地方整備局 8名 研究会会員 9名
3. 討議内容

討議に先立ち東北地方整備局より河川総点検(樋門樋管健全度評価)結果と平成26年度樋門樋管健全度評価業務の説明があり、これらの内容を踏まえ討議。

- 1) 劣化の要因として、クラックが起因となって発生する劣化事象が多く、施工時に如何に抑制するかが重要であることから、材料(骨材やセメントの性質)や施工方法(型枠・支保工をはずす時期、養生、樋管施工後の盛土時期)等について課題を整理。
- 2) 補修方法については、クラック発生要因を調べそれに合わせた補修方法を確立すべきで、今後の課題である。
- 3) 施設の図書(施工図、施工写真や養生記録等)の整備、また、施工年の古い施設や県から移管した施設(図書がない)等の対応。
- 4) 施設の長寿命化を図るため「新設時の施工不良」と「劣化箇所の補修」をテーマとして、今後重点的に討議する。

Ⅲ. 河道分科会

1. 開催日・場所 : 平成26年7月23日(水) 東急ビル4階
2. 出席者 : 東北地方整備局 9名 研究会会員 9名
3. 討議内容

東北地方整備局より「河道分析評価の取り組みについて」・「最上川下流及び赤川における河道分析評価」及び、「荒川河道管理で追及すべきこと」(伊藤副会長レポート)について話題提供を受けた。

また、これまでの活動経過の振り返りや、今後の検討テーマと進め方について議論した。

- 1) 平成26年度も流量観測講習会を引き続き開催する。(主に宮城・福島県を対象)
- 2) 河道の見方について、事象が短期間で現われやすい「荒川」をモデルに検討し、ポケットブック作成のための資料整理方法を検討する。
- 3) 樹木管理等について、伐木箇所の再繁茂対策には環境への影響も考慮した検証が必要。
- 4) 河道掘削について、掘削後の土砂堆積に対処法として「船底河道」とする掘削形状の試験施工検討中。

Ⅳ. ダム管理分科会

1. 開催日・場所 : 平成26年7月28日(月) 公益ビル3階
2. 出席者 : 研究会会員 10名
3. 討議内容 :

- 1) ダム管理アドバイザー会議(各ダム毎)の開催時に、管理ダムの検討事項、課題や問題点について助言。
- 2) 各ダム助言対応者(案)として、主、副、サブを選任し、不都合が生じた場合の対応も確認。
- 3) 「ダム管理の実務に関する指針(仮称)」の著作について、石川副会長原案に対する加筆・修正分担を提案し、後日、編集会議を実施する。(河川砂防技術基準・維持管理編(ダム編)との調整が必要。)

4. ダム管理分科会活動

- 1) 整備局主催ダム管理セミナーにおいて、ダム管理実務経験者によるダム管理上の留意点について、講師として高橋会長、石川副会長が講演。
- 2) ダム公物管理支援業務担当者に対するダム管理実務事例等について、「ダム管理講習会」を開催。
- 3) 「ダム総合点検実施要領(平成25年10月国土交通省水管理・国土保全局河川環境課)」に基づく専門家の助言として、支援要請があり、釜房ダム総合点検は高橋会長、三浦昭氏、白川ダム総合点検は石川、伊藤両副会長が対応。

講習会の開催

一般社団法人東北河川管理技術研究会では、業務の一環として、ダム管理講習会と流量観測講習会を開催しました。

講習会は（一社）全国土木施工管理技士会連合会のCPCDの学習プログラムの認定を受け、受講者には受講証明書を発行しました。

I. ダム管理講習会

1. 開催日・場所 : 平成26年11月15日(土) 公益ビル 受講者 65名
2. 講習内容
 - 1) ダム管理に関する最近の話題 講師 東北地方整備局河川部
 - 2) ダム総合点検の健全度評価についての留意事項 東北河川管理技術研究会
 - 3) コンクリートダム総合点検の実務事例について 東北河川管理技術研究会

II. 流量観測講習会

1. 開催日・場所 : 平成26年11月29日(土) 公益ビル 受講者 54名
2. 講習内容
 - 1) 河川に関する最近の話題 講師 東北地方整備局河川部
 - 2) 流量観測データの活用について 東北河川管理技術研究会
 - 3) 流量観測の留意点について 東北河川管理技術研究会



ダム管理講習会



流量観測講習会

研究会動向

1. 動向

- 1) 平成26年度 第3回理事会<平成26年10月8日>
- 2) 平成26年度 第4回理事会<平成27年2月2日>

編集後記

今年も研究会の活動にご支援のほどよろしくお願いいたします。

本号は、遅くなりましたが昨年開催した分科会活動をメインとしました。引き続き分科会活動に力を入れてゆきたいと思いますので、皆様のご協力をお願いいたします。

(編集 事務局)